

## 第2回東アジア国際顕微鏡学会議 (EAMC2)

福田 安 希

兵庫県立大学大学院生命理学研究科生命科学専攻  
生体分子生合成分野

2015年11月24日から27日までの4日間、兵庫県姫路市の姫路商工会議所にて第2回東アジア国際顕微鏡学会議(EAMC2)が開催されました。私はEAMC2の助成を頂き、日本、韓国、中国、台湾といった東アジア諸国を含め14ヶ国の研究者が参加する今会議に参加し、ポスター発表を行いました。姫路商工会議所は、コンgresバッグにも描かれていた、最近平成の大修理を終えた世界遺産の姫路城から徒歩20分程の場所に位置しています。姫路城は2日目のエクスカーションで一番人気のスポットとなっていました。私は兵庫県立大学の姫路工学キャンパスの北にある書写山園教寺で、素晴らしい紅葉と、展望台から夕日に照らされた美しい姫路の町並みを堪能しました。ご一緒した多くの先生からも「Beautiful!」という声を聞くことができ、姫路市民として誇らしい気分になりました。また、ツアーの途中では異なる分野の先生から研究内容や姫路について英語で質問されるなど、刺激的な時間も過ごすことができました。他のツアーとして、私が研究に用いている大型放射光施設、SPring-8も含まれていました。プログラムの関係で残念ながら聴講できませんでしたが、B会場の「B1-4:X-ray Microscopy」セッショ

ンではSPring-8に関する研究報告が2件行われました。

生物系セッションは「Histology and Cell Biology」、「Biology of Plants and Microorganisms」、「3-dimensional Electron Microscopy」、「Super-resolved Fluorescence Microscopy」、「Molecular Labeling」、「Connectmics」の6つが設けられ、27件の講演が行われました。その中でも特に興味深かったのが、最近注目を集めているsuper-resolution imagingに関する発表で、PALMやSTED等を用いてライブイメージングを行う報告です。光学顕微鏡レベルで、生きた細胞構造を高い時間・空間分解能で観察できたというステップの次の段階として、時空間変化を追って精度の高い定量解析が行えるようになってきました。そのため、これらの結果を新たな発見に繋げることが重要であることが分かりました。

ポスター発表は、装置系・材料系・生物系で合計136件があり、2つの会場で活発な討論が行われました。植物試料を用いたイメージングに関しては、11件ほどの報告がありました。軽食やアルコールが振る舞われたこともあり、発表者と質問者がより近くで質疑応答を行っている様に思いました。私たちのグループは「3-D cell geometrical analysis of epidermal and cortical cells in hypocotyl-root axes in arabidopsis seeds using X-ray micro-CT」という題目で発表を行いました。近年、3Dプリンターが話題となっており、手に取って構造や形態を確認できるという、まさに顕微鏡技術と密接な関係にあります。私も手作りの3Dモデルを作製し、説明の補助として用いたところ、様々な分野の先生方からおもしろい結果であるとのコメントをいただきました。研究をアピールする工夫についても勉強できたことや、海外の学生と意見を交換できたことも有意義な時間であったと思えました。

末筆ながら今会議参加に際し、EAMC2より若手研究者発表助成をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。



Aki Fukuda: Report on EAMC2  
〒671-2280 姫路市書写 2167  
2016年1月5日受付